

本書の特徴

◎近代日本彫刻が辿った歴史に沿って、内容をわかりやすく整理した。まず、1850年前後から1907年までを第一巻とし、1907年から1926年まで（明治後期から大正期）を第二巻、1926年から1950年頃まで（昭和前半期）を第三巻とした。さらに、その時代に起こった大きな変化や事項を軸に章立てし、それぞれに概説を付すことにより、「近代日本彫刻史」を原点から、時間軸に沿って把握できるようにした。

◎美麗な作品写真を各巻カラー約100点、モノクロ約200点収録、詳細な作品解説・作家紹介を付した。江戸時代末期から、明治初期に「彫刻」という美術の概念が日本にもたらされた前後の時代を含み、当時から活躍した仏師や大工、牙彫師、陶工、生人形師など、既存の近代日本彫刻史においてはあまり取り上げられなかった作品をも採り上げる。戦争で失われた銅像などの貴重な写真も多数掲載した。

◎「近代日本彫刻史」を知るうえで重要な歴史的文献を、現在は入手困難な貴重な文献を中心に資料編として採録（第一巻は40点）。作家本人が綴った言葉や、当時の芸術をリードした批評や作家自身のことばをたどることによって、当時の技術や思考について、つぶさに辿れるようにした。

近代日本彫刻集成 全3巻

第一巻「幕末・明治編」

2010年9月刊行予定

ISBN 978-4-336-05230-8

予価：四七二五〇円（税込）

体裁：造本・A4判変型（296×225ミリ）、上製、ボール函入り、四八〇頁予定

彫物師、細工師、大工、仏師といった、腕におぼえのある幕末の職人たちが、明治維新後「美術」という概念にぶつかり、彫刻家として目覚める。時代の熱気と、才能のせめぎ合いとが、「日本の彫刻」を作りあげていくその様子を、一冊に凝縮した第一巻。

第二巻「明治後期・大正編」

（2011年度刊行予定）

ISBN 978-4-336-05231-5

印象派、表現主義、アールデコといった、世界からの波を受けて、絵画やデザインのみならず、彫刻家たちも自らの殻を破ろうと模索した時代。荻原守衛や高村光太郎が代表する「ロダニズム」が輝きを増す一方で、木彫や金工、マネキンなど様々な立体表現が豊かな展開をする様子を多角的に追った、華やかな第二巻。

第三巻「昭和・戦後編」

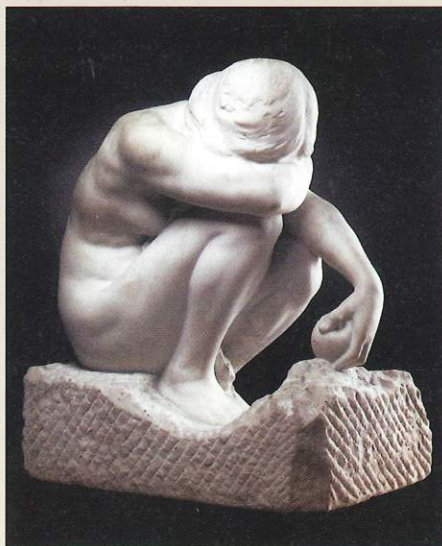
（2012年度刊行予定）

ISBN 978-4-336-05232-2

大戦へと傾いていく暗い時代にあつて消えることのなかった表現への熱望。橋本平八（詩人・北園克衛の兄）や舟越保武（舟越桂の父）らが、柔軟で自由な表現で現代美術の先駆けとなり、戦後の解放を得て開花した「日本の前衛彫刻」は世界で認められることとなる。知られざる「戦争彫刻」を含め、戦前から戦後へのつながりと断絶を検証する完結編。



橋本平八《花園に遊ぶ天女》1930年



北村四海《イヴ》1915年



竹内久一《伎芸天像》1893年



海野勝珉《蘭陵王置物》1890年

国書刊行会

発行
国書刊行会

〒174-0056 東京都板橋区志村 1-13-15
TEL 03-5970-7421 FAX 03-5970-7427
<http://www.kokusho.co.jp>
e-mail: sales@kokusho.co.jp

お取り扱い書店

近代日本彫刻集成

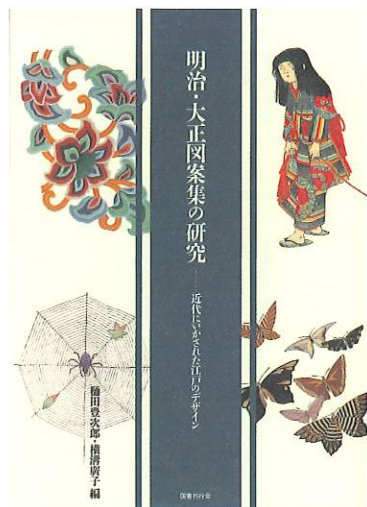
全3巻

田中修二・編

カラー図版300点、モノクロ図版600点の圧倒的な作品写真、
詳細な作品・作家解説、歴史的文献の再録によって、「近代日本彫刻」の
全体像を提示する、初の本格的な研究書!!

明治・大正図案集の研究

—近代にいかされた江戸のデザイン—

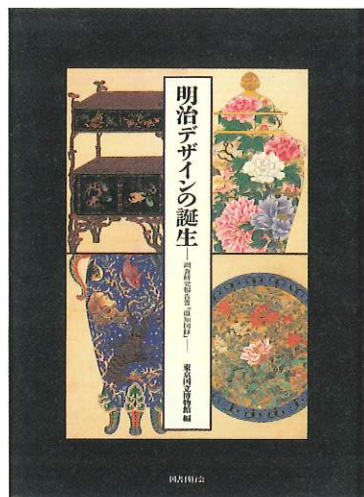


昨今あらためて注目されている日本近代のさまざまな図案。本書の著者たちによる徹底的な調査は近代デザイン＝図案の姿を浮き彫りにし、生活の中から生まれた美術を見つめる視点から日本近代美術史の複層的な歴史を見直すきっかけともなった。本書は、上記の調査で蒐集・作成した、国内に残存している近代図案集の貴重なデータをもとに、多岐にわたる視点から論考を加え、併せて調査で得た図版1万点強をDVD-ROM化して付し、もって日本近代デザイン史研究に寄与することを目的とした。

樋田豊次郎・横溝廣子 編
A4判／上製カバー装／260頁
DVD-ROM付
18900円（税込）
ISBN：978-4-336-04626-3

明治デザインの誕生

—調査研究報告書『温知図録』—



富国強兵を担う輸出製品の主力として明治政府は工芸美術振興に力を入れ、各産地での模範とすべく『温知図録』という手採色の膨大な芸術的カタログを製作した。東京国立博物館に長く収蔵されたまま一般に知られることのなかったこの書を、全国38名の第一線近代美術研究者が共同調査研究、詳細な資料とともに、美しいカラー図版約400枚を抜粋収録して刊行。また全図版を付属のCD-ROMに原色で収録（約2900点）、多様な検索を可能にした。

東京国立博物館 編
A4判／上製カバー装／304頁
CD-ROM付
24150円（税込）
ISBN：978-4-336-03929-1

大正期新興美術資料集成



五十殿利治・菊屋吉生・滝沢恭司・長門佐季・水沢勉・野崎たみ子 著
A4判変型／上製函入／640頁
52500円（税込）
ISBN：978-4-336-04711-3

約600点の主要作品をカラー図版で紹介するとともに、主要な展覧会を年表形式で詳述。年表では、展覧会目録・宣言書等の文献資料を網羅し、展覧会出品作を当時の雑誌等に掲載された図版により可能な限り再現した。さらに当該分野の研究者による最先端の論考により、現在の研究水準を明示。国内外で注目される大正期新興美術運動の全貌を明らかにする決定版資料集。

【取り扱い範囲】
1920年（大正9）～1928（昭和3）

【構成】
図版編…主要作品をカラー口絵で約600点収録。
資料編…展覧会目録・宣言書をはじめとする文献資料を翻刻し、展覧会出品作や目録書影、会場写真を当時の新聞・雑誌記事等により再現。
研究編…研究者による最新の論考を収録。
附 録…関連文献目録・主要作家略歴・人名索引等

『近代日本彫刻集成』の発刊を喜ぶ

三井記念美術館館長
成城大学名誉教授 清水眞澄

このたび、国書刊行会が田中修二編『近代日本彫刻集成』を発刊することを、研究者だけでなく、美術館、博物館、大学、画廊やマスコミなどを含めた美術界全体とともに喜びたい。日本の彫刻史は、江戸から明治時代にかけて大きく転換する。それは徳川幕府が崩壊して明治政府が成立するという政治形態の変化によって、日本社会のあらゆるものが変わる流れの一つではあるが、本書は近代彫刻史の出発点を、転換や断絶、変化ではなく、江戸から明治への連続性の中においている。このことが、作家も含めた作品の古典との対比、あるいは継承という問題と、仏像修理と近代彫刻の関係につながる、本書に一貫した歴史観ともいえるものであろう。

本書の構成は、日本の近代彫刻史を時間軸を中心に追っており、豊富な作品の写真と解説によって、分かりやすく整理されている。また、当時の作家たちの著作の一部を再録して、作家自身の考え方や感性を生みの形で伝えようとする点にも特色がある。

編者の田中修二氏は、近年精力的に日本の近代彫刻の調査を行って発刊し、それを基にした数々の論考を発表して斯界から高い評価を受けている。本書が、田中氏を中心にした比較的若い研究者によって編まれたことは、新史料の発見や新たな発想によって構築される本書に適ったものといえる。このような内容の『近代日本彫刻集成』は、これまでになかった近代日本の彫刻史を考える基本図書であり、是非とも推薦したい。

編者略歴

田中修二（たなか・しゅうじ）大分大学教育福祉科学部准教授／博士（文学）。1968年京都生まれ。1999年成城大学大学院文学研究科文学・美術史専攻博士課程後期修了。専門は近現代日本美術史、とくに彫刻と京都の絵画。主な著書に、『近代日本最初の彫刻家』（吉川弘文館、1994年）、『彫刻家・新海竹太郎論』（東北出版企画、2002年）、共著『すぐわかる日本の美術』（東京美術、1999年）、共著『竹内栖鳳とその弟子たち』（思文閣出版、2002年）、共著『日本近現代美術史事典』（東京書籍、2007年）など。屋外彫刻調査保存研究会運営委員。2007年度より大分市と共同で、同市の管理する屋外彫刻作品のメンテナンス活動および継続的な保守管理システムの構築を進めている。

執筆陣紹介

田中修二（大分大学教育福祉科学部・准教授）
大坪潤子（港区立港郷土資料館・文化財保護調査員）
齊藤祐子（筑波大学大学院・博士後期課程修了・芸術学博士）
迫内祐司（小杉放菴記念日光美術館・学芸員）
篠崎未来（大分大学大学院・修士課程修了）
篠原 聡（東海大学課程資格教育センター・講師）
藤井 明（小平市平櫛田中彫刻美術館・学芸員）
藤曲隆哉（東京藝術大学大学院・博士課程後期）
本郷孝衣（立正大学仏教文化財修復研究・実習室・研究員）
本橋浩介（佐倉市立美術館・学芸員）
吉田朝子（東京藝術大学大学美術館・学芸研究員）

【監修の言葉】

日本美術史のなかで、近代彫刻の分野は、絵画に比べ研究者が圧倒的に少ないことが起因して、概説書も専門書も少なく、入手しづらいという現状にある。豊富な作品写真と、詳細な解説、作家紹介、文献情報、最新の研究成果を反映させた本書は、「近代日本彫刻」の歴史と優れた作家、作品群、その重要性を広く伝えることを目指している。今後の研究におけるひとつの出発点として活用されるときにも、日本美術を愛する読者に新しい発見と感嘆をもたらすことを心から願うものである。

田中修二

作家・作品データを
よくレイアウト

土をこねてかたちを作る陶磁器の
分野のなかでは、西洋彫刻における

資料ページ

『近代日本彫刻集成』（第1巻）章立てと収録図版一覧

※収録作品は変更になることがございます。

I 江戸から明治へ

明珍古久《罌罎物（白在）》／横山彌左衛門（二代）《武人文様彫金大香炉》／秦蔵六《鼎形花瓶》／正阿弥勝義《糸瓜釣花入》／森川杜園《生玉伏白鹿》／石川光明《大原女牙彫根付》／高村東雲《西行法師像》／高田又四郎《觀觀音立像》／伝・田名宗経《龍頭觀音像》／新海宗松・竹太郎《十大弟子像》／吉野寛之丞《五百羅漢》／嶋村源蔵ほか《氷川神社本殿》／北村喜代松《鹿嶋神社装飾》／後藤音次郎ほか《鹿沼いまみや付け祭り屋台「銀座二丁目」》／木内喜八《柿浪に千島蛇籠水車象嵌大火鉢》／堀田瑞松《楼閣山水彫紫檀額》／玉椿象谷《狹賀彫堆黒翁香器》／原舟月（三代）《突入三体》／《伏見人形の原型》／三代高橋道八《胎袖金彩葡萄菊葉形鉢》／12代沈寿官《鍾馗像》／初代永澤永信《白磁龍目菊花貼付花瓶》／富川香山（初代）《襦袖蟹貼付合付鉢》／入江長八（1815-1889）《天鈿女命》／松本喜三郎《谷汲観音像》／安本亀八《相摸生人形野児宿備と当麻酈速》／里見重義《龍》／角羽製（佐野隆親鈐）《天燈鬼》／後藤一乗《鉄鐺》／正阿弥勝義《雪中南天樹鴨図額（金属彫刻雪中南天野禽図額）》／逸見東洋《玉堂富貴之図大座卓》／《腹鼓を打つ狸》／《面打師》／高橋鳳雲《銅造釈迦如来及五百羅漢像》／高村東雲《文殊菩薩》《普賢菩薩》／後藤義光《鶴谷八幡宮内拝天井》／北村喜代松《山車》／入江長八《千羽鶴》／古田亀五郎（高亀）《四谷須賀神社境内大鳥神社土蔵扉絵（繰絵）》／七代錦光山宗兵衛《色絵金襴手龍鳳文獅子紐飾壺》／友田安清・初代永澤永信《白磁龍目菊花貼付花瓶》／宮川香山《白磁観音立像》／渡辺幸平《寿老人》／《チブルシーサー》／《御所人形装紋付着衣座姿》／三代原舟月《山車人形天照大神》／松本喜三郎《薔薇実盛像》／初代安本亀八《細川宏子像》

II 最初の彫刻家たち

旭玉山《人体骨格》／旭玉山《宮女置物》／島村俊明《牙彫藤原鎌足像置物（牙彫鎌足／図置物）》／朝日明堂《牙彫小兒愛鳩置物》／武内實雄《牙彫置物田舎屋人物》／荒川亀斎《福田姫》／森川杜園《北杜鹿》／高村光雲《綾亀》／高村光雲《老猿》／石川光明《浮彫観音菩薩像》／石川光明《鷹狩り》／竹内久一《神武天皇像》／竹内久一《伎芸天像》／山田鬼斎《平治物語額》／山田鬼斎《老婆》／林美雲《天平美人》／旭玉山《饗饌象牙彫置物》／金田兼次郎《牙彫鴛置物》／朝日明堂《牙彫観音》／相馬邦之助《牙彫婦人小兒像置物》／小倉まさ女《雛祭置物》／荒川亀斎《鶴岡扇額》／荒川亀斎《京駄天》／森川杜園《橋弁慶》／中谷省古《観音立像》／神濱一正《六山屏風》／島村俊明《桃太郎行列》／島村俊明《神武天皇像》／高村光雲《布袋置物》／高村光雲《狎》／高村光雲《綾亀》／和泉整乗《銅鑄雌雄置物》／高村光雲《山嶺訓誥》／石川光明《鹿》／竹内久一《京駄天》／竹内久一《鉄金剛神立像》／山田鬼斎《護良親王像》／山田鬼斎《鬼神置物》／後藤貞行《牛》／林美雲《神武天皇像》／村上九郎作《鷹の図木彫額》／炭光石《地藏尊倚像脇侍》／岡崎雪声（鈐造）《鉄金剛神》／鈴木長吉《金燈籠》／小倉惣次郎原型制作《「金燈籠」麒麟浮彫》／加納夏雄・海野勝?《岩上鶴鶴置物》／海野勝?《太平楽置物》／香川勝廣《和歌浦図額》／中川義實《神龍呈瑞置物》

III 工部美術学校と洋風彫刻

ヴィンチェンツォ・ラグーザ《日本婦人像》／小栗令裕《欧州婦人アリアンス半身》／大熊氏廣《ガンベッタ像》／大熊氏廣《林勇藏像》／大熊氏廣《福沢諭吉像》／内藤陽三《廻江方寿像》／寺内信一《深川せい子像》／小倉惣次郎《大隈重信伯像》／長沼守敬《榎樹博士像》／長沼守敬《老夫》／藤田文蔵《狩野芳崖デスマスク》／ヴィンチェンツォ・ラグーザ《大鳥圭介像》／ヴィンチェンツォ・ラグーザ《正義（ライオン）》／ヴィンチェンツォ・ラグーザ《日本の大工》／大熊氏廣《破牢》／大熊氏廣《福沢先生還暦記念灯台置物》／寺内信一《観音像》／寺内信一《蝦蟇仙人》／廻江方寿《玉織姫像》／松（松）山政太郎《筋肉像》／（推定）菊地鈐太郎《久米民之助像》／藤田文蔵《勝利の図》／藤田文蔵《悪魔無邪氣の小児を欺騙するの図》／小倉惣次郎《福島中佐像》／長沼守敬《オ・リド（リド島にて）》

IV 銅像・記念碑

〔藤田治三郎〔ほか〕鈐造〕《日本武尊銅像》／菊地鈐太郎《亀井茲監銅像（亀井茲監頒徳神）》／大熊氏廣《大村益次郎銅像》／大熊氏廣《有栖川宮熾仁親王銅像》／大熊氏廣《瓜生岩子銅像》／藤田文蔵《ミューレル銅像》／佐野昭《可美真手命銅像》／高村光雲ほか《楠木正成銅像》／高村光雲ほか《西郷隆盛銅像》／竹内久一《日蓮聖人銅像》／長沼守敬《ペルソ・スクリパ博士銅像》／新海竹太郎《北白川宮能久親王銅像》／米原雲海《善那銅像》／山崎朝雲《龟山上皇銅像》／沼田一雅《仙台昭忠銅像》／本山白雲《品川弥二郎像》／松井兼運《日本武尊像》／大熊氏廣《大村益次郎銅像》／大熊氏廣《日清戦争第一軍戦死者記念碑》／大熊氏廣《皇前親兵式レリーフ》／大熊氏廣《有栖川宮熾仁親王銅像》／大熊氏廣《有栖川宮熾仁親王銅像彫形》／大熊氏廣《八甲田山雪中行軍記念銅像》／藤田文蔵《徳興宗光銅像》／高村光雲《松方正義像（木型）》／高村光雲、白井雨山、黒岩淡哉、水谷鉄也《長岡通全像》／竹内久一（推定）《毘呂瑞磨・伎芸天・菊花紋章》／白水六三郎〔ほか〕《矢田一鶴原画）《日蓮上人銅像台座レリーフ》／長沼守敬《毛利家銅像》／新海竹太郎《北白川宮能久親王銅像木製原型》／新海竹太郎《北白川宮能久親王銅像》／新海竹太郎《木彫能久親王殿下像型》／米原雲海《善那木型》／本山白雲《後藤象二郎銅像》／大塚秀之丞《神武天皇銅像》／長渡南《横山久太郎銅像》／田中長兵衛像》／岡崎雪声《神武天皇銅像》／津田信夫《足利戦勝記念碑》

V 「彫塑」の時代

山崎朝雲《彫塑家トモデル置物》／米原雲海《清宮》／海野美盛《第五回内国勲業博覧会名譽賞牌原型》／新海竹太郎《少女像》／沼田一雅《猿》／新海竹太郎《かめぶろ》／北村四海《婦人胸像》／武石弘三郎《婦人胸像》／大村西崖《聖徳太子像》／白井雨山《太田道灌像》／板谷波山《元禄美人》／平岡田中《無央々々》／荒川嶺雲《義経高松／図額》／大塚秀之丞《商人》／青木外吉《漁夫》／本保義太郎《鷺き》／渡辺長男《鷺き》／高村光太郎《解剖台上の紅葉山人》／香取秀真《古代神像》／山田宗美《鉄打出瓦二鳩》／石田英一《銅製群兎置物》／横田秀一《鑄銅角角》／浅井忠《農婦像》／白水六三郎《武者人形（博多人形）》／朝倉文夫《進化》／加納夏雄・池田隆雄《試作一円銀貨手本》／黒岩淡哉《子守半身》／米原雲海《嬰兒置物》／米原雲海《狂人》／米原雲海《木彩色敬礼》／山崎朝雲《野球技之図》／山崎朝雲《桂の影》／平岡田中《唱歌君可代》／滝沢天友《アムハラ教主像》／滝沢天友《恍惚》／宇田川和雄《村婦牛飼》／渡辺長男《苦行》／渡辺長男《妻》／渡辺長男《労働者》／渡辺長男《農夫使ヲ締ム》／武石弘三郎《少女》／今戸精司《陶杯》／津田信夫《彌夫》／正清平峰《半身像》／細谷三郎《婦人》／本保義太郎《若菜亮》／本保義太郎《子供（一条美光）》／青木外吉《微風》／白井雨山《老人胸像》／白井雨山《力能扛鼎》／高村光太郎《薄命児》／後藤良《老婆》／本山白雲《坂上浄野像》／天岡均一《老婆像》／天岡均一《石青豊公》／長愛之《渡南》《少女鶏ヲ愛ス》／畑正吉《鶏》／池田勇八《笛声》／水谷鉄也《愛之泉》／水谷鉄也《佳園》《乙女》／新海竹太郎《ゲテチ胸像》／新海竹太郎《音楽》／新海竹太郎《決心》／北村四海《草刈童子》／北村四海《土型少女像》／北村四海《海》／海野美盛《流瀉馬》／平田宗幸《童子水滴》／桜岡三四郎《観音半身像》／板谷波山《童子像》／香取秀真《子規居士塑像》／正岡子規《子規居士自作塑像》／沼田一雅・海野美盛《琵琶吹奏置物》／寛定次《鑄銅漁夫》／小林誠義《猿廻し置物》／浅井忠《裸婦座像》／岡田三郎助《女の顔》

VI 仏像修理と近代彫刻

高村光雲《観音像木型》／加納鉄哉《新羅知鳳》／森川杜園《九面観音立像模刻》／竹内久一《鉄金剛神立像模刻》／山田鬼斎《世親立像模刻》／新納忠之介《中尊寺一字金輪坐像模刻》／加納鉄哉《布袋坐像》／森川杜園《法隆寺塔内塑像女（模）》／竹内久一《興福寺東金堂准母居士像模刻》／竹内久一《東大寺戒壇広田天像模刻》／林美雲《園城寺吉祥天立像模刻》／新納忠之介《渡海遠藤像》／新納忠之介《脱活乾漆春日少男（乙女）》／菅原大三郎《嬰兒像》／信谷友三《伎芸天像》／松原源蔵《象雲》《神代人物像》／松原象雲《迷金羅大將立像模刻》／天岡均一《富樫那立像模刻》



I-21
鍾馗像
沈壽官（二代）（ちん・じゆかん）
一八九八年（明治三二）
上
高四三・五、幅三三・〇
沈壽官家伝世品收藏庫



高橋道八（三代）（たかはし・どうはち）
江戸（明治期）（九世紀）
土
高一二・五、口徑三二・七×三三・四
京都・正伝水源院

作品写真・解説、
同ページに見やす

沈壽官は、鹿兒島県で現在まで受け継がれる系薩摩焼の陶工の家系で、桃山時代の後半局から連行されてきた沈当焼はじめ黒釉の日常雑器一永年間（一六二四～四四）初年けた「白薩摩」も焼かれるよ一八世紀終わり頃からは、物が本格的に制作されるようになった多彩なモチーフの置た。一九世紀前半には色絵とら明治期にかけて大量に輸出応（三）のバリ万国博覧会では、府とは別に出品し、薩摩焼が駿を経て、欧米からの注文に制作されたという。

この《鍾馗像》は、珍物の二二代沈壽官の代表作であるストラリア・メルボルの質魑が押さえ込んでいる天邪鬼理由で受け取りを拒まれたも鍾馗と天邪鬼の顔の表情やにかたち作られ、力強さのみに情を表したモチーフにもかかわらず、薩摩焼らしい気品を漂わせる。薩摩焼に限らず、江戸時代や明治期のはこうした彫刻的な造形を数多くの一八九四年（明治二七）一〇月に発表し美術博覧会誌「二九号」で、「彫塑」のなっているのも、彼の視野にこれらの彫刻的であったためである。（田中修二）

【日本の彫刻】【その他の美術／社会の動向】に分け、詳述

年表
1815 入江長八（1815-1889）《天鈿女命》
1815 松本喜三郎《谷汲観音像》
1815 安本亀八《相摸生人形野児宿備と当麻酈速》
1815 里見重義《龍》
1815 角羽製（佐野隆親鈐）《天燈鬼》
1815 後藤一乗《鉄鐺》
1815 正阿弥勝義《雪中南天樹鴨図額（金属彫刻雪中南天野禽図額）》
1815 逸見東洋《玉堂富貴之図大座卓》
1815 《腹鼓を打つ狸》
1815 《面打師》
1815 高橋鳳雲《銅造釈迦如来及五百羅漢像》
1815 高村東雲《文殊菩薩》
1815 後藤義光《鶴谷八幡宮内拝天井》
1815 北村喜代松《山車》
1815 入江長八《千羽鶴》
1815 古田亀五郎（高亀）《四谷須賀神社境内大鳥神社土蔵扉絵（繰絵）》
1815 七代錦光山宗兵衛《色絵金襴手龍鳳文獅子紐飾壺》
1815 友田安清・初代永澤永信《白磁龍目菊花貼付花瓶》
1815 宮川香山《白磁観音立像》
1815 渡辺幸平《寿老人》
1815 《チブルシーサー》
1815 《御所人形装紋付着衣座姿》
1815 三代原舟月《山車人形天照大神》
1815 松本喜三郎《薔薇実盛像》
1815 初代安本亀八《細川宏子像》
1815 旭玉山《人体骨格》
1815 旭玉山《宮女置物》
1815 島村俊明《牙彫藤原鎌足像置物（牙彫鎌足／図置物）》
1815 朝日明堂《牙彫小兒愛鳩置物》
1815 武内實雄《牙彫置物田舎屋人物》
1815 荒川亀斎《福田姫》
1815 森川杜園《北杜鹿》
1815 高村光雲《綾亀》
1815 高村光雲《老猿》
1815 石川光明《浮彫観音菩薩像》
1815 石川光明《鷹狩り》
1815 竹内久一《神武天皇像》
1815 竹内久一《伎芸天像》
1815 山田鬼斎《平治物語額》
1815 山田鬼斎《老婆》
1815 林美雲《天平美人》
1815 旭玉山《饗饌象牙彫置物》
1815 金田兼次郎《牙彫鴛置物》
1815 朝日明堂《牙彫観音》
1815 相馬邦之助《牙彫婦人小兒像置物》
1815 小倉まさ女《雛祭置物》
1815 荒川亀斎《鶴岡扇額》
1815 荒川亀斎《京駄天》
1815 森川杜園《橋弁慶》
1815 中谷省古《観音立像》
1815 神濱一正《六山屏風》
1815 島村俊明《桃太郎行列》
1815 島村俊明《神武天皇像》
1815 高村光雲《布袋置物》
1815 高村光雲《狎》
1815 高村光雲《綾亀》
1815 和泉整乗《銅鑄雌雄置物》
1815 高村光雲《山嶺訓誥》
1815 石川光明《鹿》
1815 竹内久一《京駄天》
1815 竹内久一《鉄金剛神立像》
1815 山田鬼斎《護良親王像》
1815 山田鬼斎《鬼神置物》
1815 後藤貞行《牛》
1815 林美雲《神武天皇像》
1815 村上九郎作《鷹の図木彫額》
1815 炭光石《地藏尊倚像脇侍》
1815 岡崎雪声（鈐造）《鉄金剛神》
1815 鈴木長吉《金燈籠》
1815 小倉惣次郎原型制作《「金燈籠」麒麟浮彫》
1815 加納夏雄・海野勝?《岩上鶴鶴置物》
1815 海野勝?《太平楽置物》
1815 香川勝廣《和歌浦図額》
1815 中川義實《神龍呈瑞置物》
1815 ヴィンチェンツォ・ラグーザ《日本婦人像》
1815 小栗令裕《欧州婦人アリアンス半身》
1815 大熊氏廣《ガンベッタ像》
1815 大熊氏廣《林勇藏像》
1815 大熊氏廣《福沢諭吉像》
1815 内藤陽三《廻江方寿像》
1815 寺内信一《深川せい子像》
1815 小倉惣次郎《大隈重信伯像》
1815 長沼守敬《榎樹博士像》
1815 長沼守敬《老夫》
1815 藤田文蔵《狩野芳崖デスマスク》
1815 ヴィンチェンツォ・ラグーザ《大鳥圭介像》
1815 ヴィンチェンツォ・ラグーザ《正義（ライオン）》
1815 ヴィンチェンツォ・ラグーザ《日本の大工》
1815 大熊氏廣《破牢》
1815 大熊氏廣《福沢先生還暦記念灯台置物》
1815 寺内信一《観音像》
1815 寺内信一《蝦蟇仙人》
1815 廻江方寿《玉織姫像》
1815 松（松）山政太郎《筋肉像》
1815 （推定）菊地鈐太郎《久米民之助像》
1815 藤田文蔵《勝利の図》
1815 藤田文蔵《悪魔無邪氣の小児を欺騙するの図》
1815 小倉惣次郎《福島中佐像》
1815 長沼守敬《オ・リド（リド島にて）》
1815 藤田治三郎〔ほか〕鈐造《日本武尊銅像》
1815 菊地鈐太郎《亀井茲監銅像（亀井茲監頒徳神）》
1815 大熊氏廣《大村益次郎銅像》
1815 大熊氏廣《有栖川宮熾仁親王銅像》
1815 大熊氏廣《瓜生岩子銅像》
1815 藤田文蔵《ミューレル銅像》
1815 佐野昭《可美真手命銅像》
1815 高村光雲ほか《楠木正成銅像》
1815 高村光雲ほか《西郷隆盛銅像》
1815 竹内久一《日蓮聖人銅像》
1815 長沼守敬《ペルソ・スクリパ博士銅像》
1815 新海竹太郎《北白川宮能久親王銅像》
1815 米原雲海《善那銅像》
1815 山崎朝雲《龟山上皇銅像》
1815 沼田一雅《仙台昭忠銅像》
1815 本山白雲《品川弥二郎像》
1815 松井兼運《日本武尊像》
1815 大熊氏廣《大村益次郎銅像》
1815 大熊氏廣《日清戦争第一軍戦死者記念碑》
1815 大熊氏廣《皇前親兵式レリーフ》
1815 大熊氏廣《有栖川宮熾仁親王銅像》
1815 大熊氏廣《有栖川宮熾仁親王銅像彫形》
1815 大熊氏廣《八甲田山雪中行軍記念銅像》
1815 藤田文蔵《徳興宗光銅像》
1815 高村光雲《松方正義像（木型）》
1815 高村光雲、白井雨山、黒岩淡哉、水谷鉄也《長岡通全像》
1815 竹内久一（推定）《毘呂瑞磨・伎芸天・菊花紋章》
1815 白水六三郎〔ほか〕《矢田一鶴原画）《日蓮上人銅像台座レリーフ》
1815 長沼守敬《毛利家銅像》
1815 新海竹太郎《北白川宮能久親王銅像木製原型》
1815 新海竹太郎《北白川宮能久親王銅像》
1815 新海竹太郎《木彫能久親王殿下像型》
1815 米原雲海《善那木型》
1815 本山白雲《後藤象二郎銅像》
1815 大塚秀之丞《神武天皇銅像》
1815 長渡南《横山久太郎銅像》
1815 田中長兵衛像
1815 岡崎雪声《神武天皇銅像》
1815 津田信夫《足利戦勝記念碑》

図版篇に掲載の作品は図版番号を記す

特に言及すべき出典については明示

貴重文献を翻刻（仮名使いは初出時のまま、旧漢字は新漢字に改めた）、章立てで整理し解題を付した。